

第2号

北見商工会議所青年部広報紙



トライ



2001年

8月

きたみサマーフェスティバル2001
北見商工会議所青年部も大活躍!?

北見商工会議所青年部事務局 〒090-8710 北見市北3条東1丁目 北見経済センター内
TEL.(0157)23-4111・FAX(0157)22-2282 E-mail syoko@okbots&or.jp

平成十三年度四ヶ月を振り返って

北見商工会議所青年部

会長 鈴木達裕



平成十三年度に入ってから四ヶ月が過ぎました。

◎四月

高知への訪問・高知YEGとの交流↓嫌になるほど飲まされました。

YEG北海道ブロック総会↓初参加でちよつとだけ緊張しました。

研修委員会担当例会での「Iモード」↓今、日一杯活用しています。

◎五月

総務広報委員会担当例会での「そば打ち」↓実に面白かった。

◎六月

親睦委員会担当例会での「ボーリング&焼肉」↓盛り上がった。

◎七月

おまつりプロジェクト担当例会での「まつり検証」↓ちよつとだけ遠ざかっていた自分の「まつりの血」が蘇った。

廃棄物処理場の見学↓んゝ勉強になった。

とん田大綱引き参加↓完敗したけれども、久々に燃えた。

会員の皆さんは、いかがでしたでしょうか。そして、担当の委員会・プロジェクトの皆さん、本当にお疲れ様でした。

八月からの九ヶ月、対外的には全道大会・全国大会があり、対内的には毎月の例会・行事があります。準備・企画をさせる皆さんには、大変なご苦労をおかけ致しますが、このような経済状況を生き抜いていくためにも、共に学び、共に愉しんでいきたいと思っておりますので、皆様のご協力、ご参加をよろしくお願い致します。

新入会員紹介



竹内稔昌会員
は、住友海上
火災保険㈱代
理店オフィス

タケウチの代表です。オフィスを開設して十三年目で奥様と娘さん三人家族です。娘さんは現在札幌の学校へ行っているのですが、少し寂しくまた心配だそうです。

青年部へは、婦人部の方々と知り合いが多く、入会を勧められたそうです。そして異業種の方々と活動し、良い仲間を多く作りたいたいとのこと。

会社の今後の目標としては、二年後には法人化をし、もっと社会貢献することと熱く語っていました。

竹内会員は、お酒は主にウイスキー、でも何でも飲む、趣味は特に凝っているものは無いが、マージャン、パチンコ、ゴルフと一通りは行きます。ちなみにゴルフは100前後のスコアで、青年部でもライバルは多そうです。

取材 宮澤 悦也

高知視察

四月六日より九日の三泊四日で高知城築城四百年の高知訪問団に、私加藤と、鈴木会長、高橋副会長、舛川副会長、村井事務局長の五名で参加してきました。

高知では到着早々高知商工会議所青年部と交流、高知名物皿鉢料理を前に地酒で乾杯、楽しい一時を過ごさせていただきました。二日目は、「高知サミット」、

高知市の姉妹都市との交流会懇親会に出席しました。終了後青年部と交流会、高知のネオン街を散策、最後は屋台のラーメンに餃子、この餃子のおいしいこと今でもあの味は忘れられませんが、三日目も青年部と交流会、高知城で夜桜の花見会、ライトアップされた高知城、夜桜は大変綺麗でした。気がついたことが一つ、高知の青年部では時間が経つにつれメンバーがどんどん増えてきます。そして最後まで、びっくりです。

以前より計画していた廃棄物処理施設の見学でしたが日程が定まらず、女性の皆様と共に実施することが出来ました。

正直な印象は、やっとな見も施設整備が行われ他都市と並ぶことが出来たという感じです。本州方面より、近所に引越されてきた方にいつも開口一番、「北見は分別しないのか?」ということでしたから私自身ただただ赤面し、しどろもどろになっていました。資源の有効利用が議論され、それを実際のものにしている

意欲で赤面でした。下水道のインフラが全国屈指となった次には、やはりゴミ問題がテーマとなるべきでしょう。

開放的な施設であるがゆえに、分別は何故行うのかの疑問を解き一人でも多くの市民が訪れることを切望します。

事務局長 村井 雄剛

総務広報委員

加藤 智

きたみサマー フェスティバル2001

特集記事

「きたみサマーフェスティバル2001」が、七月二十日(金)から二十二日(日)の三日間に渡り、市内中心街及び香りやんせ公園を中心とした河川敷で開催されました。

例年、ほんちまつりとして開催されていた日程に、ソーラーカーレース、香りやんせフェスティバル、ピクオホーツクフォーラムなど様々なイベントが開催され、この三日間に実行委員会の苦勞と努力に報われるかのように、ほぼ晴天のもと、多くの市民が来場し、短く暑い北見の夏を楽しみました。

商工会議所青年部は、とん田大綱引きの部会で、外川副会長を中心に、紅白のふんどし、市民の夕べでの出陣式、勝利者チームへの賞品など新しい企画をもって運営し、メンバーも赤ふんどしを締め綱引きに参加をしました。結果は、疲れる間もなく三連敗でしたが、青年部が北見のイベントに関わった第一歩でした。

特集 きたみサマーフェスティバル2001



↑舞踊パレード…市長も踊りました。



↓ソーラーカーパレード
今年初めて市街を行進。



↑小公園会場で何やら良からぬことを相談中??



↓本番を前に着替え中。
今年からふんどしの色が赤と白に分かれました。



↑マイクじゃないぞ!飲まないや出れない。



↑とん田大綱引き…赤ふんどし青年部あつという間の3連敗。



↑敗者の仕事”後かたづけ”

←こどもサンパ
未来の青年部???

例会報告



研修委員会

四月例会
四月の例会は、NTTドコモさんの多大なご協力の下、

実効性もあり又内容のある例会であったと思います。先ず携帯に限らずモバイルとしての近未来のビデオ及び説明がありました。驚きと共に今後の会社経営に及ぼす影響については、期待よりも不安の方を強く感じ、改めて自己研鑽に励まなければとの思いを強く持ちました。続いてIモード利用の実技に入りましたが多数のインストラクターを派遣して頂いたので、少数のグループ分けでの実技指導を受けている時間は、無駄なく新しい知識が習得でき時間が足りないくらいでした。この例会を通して皆さんが「オヤジ親指族」として成長され、仕事にもその他の趣味にもご活躍されていくことと思えます。

研修委員長 丸茂 紳司

総務広報委員会



五月例会

男を上げるシリーズでいこうとAさんが言い出し、その結果として

そば打ちになりました。又講師の打ったそばをぜひ会員にも食べて欲しいとTが言い出し、茹でる準備もしました。Tは美里自然そばの会の安斉秀一氏と旧知であり、その友情のためか当日には会代表の安斉誠一氏を含め六名もの講師におこし頂き万全の体制で例会に臨むことができました。初体験の方が殆どで良き思い出を作ったのではと思えます。特に、人により味が違うという不思議も感じたと思います。

総務広報委員長

齋藤 正仁

親睦委員会



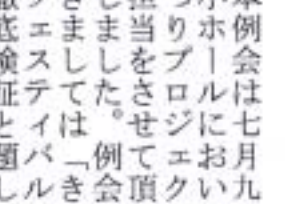
六月例会

今回は特に花見にこだわりながら「委員会という枠を越えて、青年

部内の親睦をスポーツや飲食を共にすることにより深めて行きたい。」を例会主旨に二部構成での例会を企画しました。第一部のボーリングでは玉扱いの上手な方、あるいはそれほどでもない方が楽しく競技できる様、参加の皆様には逆手での打球、禁穴に指入での打球等少々無理なルールでの競技をお願いしました。第二部の花見焼肉では、舛川副会長のご発声から花見酒で乾杯、宴会に入ると空腹を満たしながら、ボーリングの表彰式、勝馬結果発表など大いに盛り上がり、小原監事の「やはりこの人！」の締めで閉会となった。今回は盛り上げ役が盛り上がり、次回例会につなげていきたい。

親睦委員長 熊谷 淳史

サマフェスプロジェクト



七月例会

本例会は七月九日市民会館小ホールにおいてばんちまつりプロジェクトチームが担当をさせて頂き開催いたしました。例会の内容につきましては「きたみサマーフェスティバル2001」徹底検証と題し、ソーラーカーレース、ソーラークリエイティブ、香りやんせフェスティバル、そしてばんちまつりを合体させた夏の

大イベント、今年のまつりを楽しむポイントを中心に、近隣YEGの祭りとの関わり、そして我々が本年第十八回ばんちまつりに参加企画を予定している内容・タイムスケジュール等を含め説明させて頂きました。今後青年部と致しましてはこの祭りが市民のふるさとごころの高揚や短い北国の夏を楽しむことなどを主旨に加えながらも北見市の商工振興を目的に実施されてきた歴史的背景、また商工会議所がその事務局を担っていることからばんちまつり実行委員会一翼を青年部が担っていかねばならないものとおもっておりますので、会員皆様のご協力・ご理解をお願い致します。

リーダー 舛川 誠

編集後記

創刊号に続き、この度何とか第2号を発行することが出来ました。担当は総務広報委員の新井さん、千葉さん、宮澤さん、そして私、長谷川の4名です。

ところで私の好きな言葉の中で「読む事は人を豊かにし、話す事は人を機敏にし、書く事は人を確かにする。」という言葉があります。言うまでもなく、人間、沢山の本を読んだり、沢山の人の話をし、自己研鑽することとは大変、重要なことだと思います。しかし、それを書くこと（記録化する）は意外と少ないのではないのでしょうか？

私はこの広報紙が北見商工会議所青年部の「確かな歴史の記録」として永遠に残って行けば素晴らしい事だと思います。最後に原稿依頼にご協力頂きました方々におかざいました。

総務広報委員

長谷川 嘉男